

新 紹 介

"... the difference between a college man and a man lacking in college is that he has the resource of books, that he knows there's a book side to everything."

「上野直蔵博士選歴記念論文集」発行所、東京、南雲堂A5六三二頁、定価一・八〇〇円
 学長上野直蔵博士の選歴記念論文集がこのほど上梓された。博士の英文学者としての名声はすでにたかく、その研究範囲は英語英米文学のみならず、英語教育、比較文学、英文創作に及び、各方面に門下の育成にあたっていた。この論文集は、そうした博士の広く、深い学識の門下に及ぼした影響の総決算書の観がある。古くはイギリス中世紀のラングランド、新しくはアメ

リカの現代詩人パウンドに及ぶまでの研究論文、くわえて英語学、英語教育、国文学の名作翻訳にいたるまでの成果三十数篇、さらに博士の友人知己による研究論文をくわえて四十余篇の論文集である。このなかには、詩人、学者として令名たかい峯人矢野禾積博士、演劇評論家山本修二氏、ミシガン大学教授F・L・ハントリイ博士、明治学院大学長高橋源次博士、方言学者樺垣実氏、日本英学研究家重久篤太郎氏、などの友情執筆論文をはじめ、女子大学長越智文雄博士、大学教授笛磨児玉実用氏の詩などがおさめられている。四十数篇の論文中、次代の同志社英語英米文学を背おう若手研究家の充実した仕事ぶりは識者の羨望の的であろう。巻末に付せられた「自伝にかえて」と題したエッセイは、博士の誠実な人柄を如実に示すものとしてのし文である。豪華な六〇〇余頁に及ぶこの論文集は、そのまま上野博士の、学者として、教育者としての大きな存在をもののがたる資料となるであろう。

(J・T)

一円一億、黒田了一編「憲法問題入門」発行所、有斐閣、B6三七七頁、定価五八〇円

本書は、同大、京大、立大、その他諸教授が、憲法の諸問題について執筆された講座論集で、田畑博士の選歴に捧げられている。三つの部分よりなる本書は、この護憲の立場に立つて統一されている。憲法の基本問題をあつかった第一部では、憲法と政治(小野哲) 大日本帝国憲法と日本国憲法(熊谷開作) 日本国憲法法の制定(井ヶ田良治) 絶対的平和主義と永世中立(恒藤恭) 憲法改正と憲法改悪(田畑忠) 憲法と安保体制、(黒田了一)の問題が採り上げられている。第二部では、国家の諸機構として、象徴天皇制(一円一億) 公務員制と官僚制(君村昌) 憲法と選挙制度(大西芳雄) 衆議院解散論(土井多賀子) などの問題が究明されている。また第三部では、国民の諸権利と題して、基本的人権の問題があつかわれ、「基本的人権をまもりぬくことが国民最大の責任であり義務である」ことを強調している。これには、基本的人権(末川博) 個人尊重の法理(八木鉄男) 公共の福祉と不許濫用の原則、(芳野勝) 国民の政治的権利(田畑啓門) 請願権を中心とする国務請求権(高橋貞三) 憲法と家族制度(谷田貝

(三郎)憲法における婦人の地位(田辺繁子) 教育権と勤評の問題、(和田鶴蔵) 勤労者

の労働基本権(恒藤武二)財産権の保障と農
聊に関する諸問題(加藤正男) 罪刑法定主義
と憲法(滝川幸辰) 憲法第三十一条と法の適
正手続(大野真義) 死刑廃止論(秋山哲治)
の論稿が収められている。とくに故滝川博
士の論文は、生前最後のものとなった。

内容論旨が、平易である上に、重要な諸
問題に触れた水準の高い憲法書として、わ
が国の進みゆくべき指針を示した指導書で
ある点で本書は、必読されるべき好著であ
るといえよう。

(K・U)

山田忠男著(工学部教授)「風流洞物語」

発行所、京都、洛味社、B6 一七九頁、定価
四〇〇円

本書はその収めるところの随筆約二十篇―
主として雑誌「洛味」に書かれたもの。著
者の五十才記念、京都在住三十年のモニユ
メンタルな意味も含まれている。

「研究室は御所の北側、烏丸今出川のキャ
ンパス、割合に奥まった一劃の理化学館に
ある。風雪すでに七十年、……しかし私は
この古風な――如何なる近代技術の粋をこ

らしても作り出せない理科学館の空気をこ
よなく好む。」

著者はこの理科学館の住人となって十五
年、工学部にあつて生物学の研究と講義の
かたわら、京大オーケストラと同志社交響
楽園の指導者として打込んでこられ、近年、
京都市教育委員長の要職をもかねられる多
忙のなかに、こんな珠玉のような随筆をも
のにされた。なお加登藤信氏の美しい京都
の写真と、樋口富麻呂画伯の表紙絵は、この
好著をかざるにふさわしいものといえよう

松好貞夫著(校友)「天保の義民」岩波新書
四七一号、定価一三〇円

岩波新書として出た同氏の三冊目の著書で
ある。今更紹介の必要も無いほど今年一月
の主要新聞が読書欄で大きくとりあげた。
今から百二十一年前、新島先生誕生の前年、
水野忠邦の天保改革のさ中に惹起した大農
民運動、著者の郷里江州蒲生と隣接の甲賀、
栗太三郡の主だった庄屋大庄屋(甲賀武士
の子孫)を指導者とする四万の農民が、幕
府役人の増税手段である理不尽な検地実施
阻止した運動の顛末をを研究し、封建末期
に於ける大衆運動成功の基盤条件を解明

し、農民運動としては稀な事例を明らかに
した学問的業績である。史料に対する適正
な判断と推移進行する事件の捉え方の手際
よさは、その地出身者ならではの感を抱か
せ、郷土につながる特別な感と熱意とが研
究の支柱となっていることを思はせる。ま

た表現の自由さ、うまさがこの学問書の市
場を更に啓蒙、教養書の市場にまで押し広
め、新書々の目的を充分達している。著者
は元同大教授、現東京都立大教授、日本近
世経済史専攻、経博。

(R・T)

白井喜之介、松尾弘子共著、写真集「西陣」
発行所、京都、白川書院、A5 版二五〇頁、
定価八二〇円

西陣の歴史、現状、西陣織の紹介、また西
陣風物誌と歳事記が写真と文章によつて解
説されている。この本の美しい写真を担当
されたのは、三十三年に同志社大学文学部
を卒業した松尾弘子さんであるが、同氏は
卒業いらい、西陣織物工業組合の広報を担
当。同工業組合が毎月刊行している「西陣
ぐらふ」で才能を発揮されている。共著者、
白井喜之介氏の文章とともに、この本は京
都に関する好個の読みものといえよう。